

戦争の記憶を語り継ぐために



- ❶市内の戦跡を巡る「親子戦跡めぐりバスツアー」
- ❷貴重な証言や資料を展示した「戦後70年特別企画展」
- ❸修学旅行生へのガイド案内
- ❹九州管内の小中高校生の平和へのメッセージを募集する「平和の花束」
- ❺整備を行った「海軍航空隊笠野原基地跡の川東掩体壕(上)」と「海軍航空隊串良基地跡の地下壕第一電信室(下)」



節目の戦後70年を迎えた昨年は、全国的に戦争に関する様々な催しが行われたほか、テレビや新聞で特集が組まれるなど、戦争について改めて考える一年となりました。

市でも、昨年は特別企画展や戦跡ツアーなどを実施したほか、市民の皆さんから、戦争に関する証言や当時の資料の収集を行いました。

今号では、集まった証言や資料、市内に残る戦争遺跡などを、後世に語り継いでいくために、行っている取り組みについて紹介します。

新たに分かった戦跡を調査



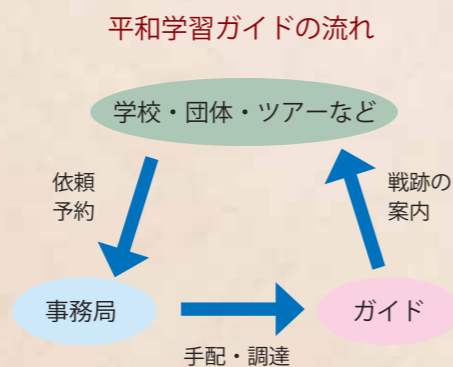
新たに分かった発電所跡の入口

市では認定ガイドの研修会を毎月実施しています。

7月には新たに存在が分かった発電所跡の調査活動を行いました。この発電所跡は、串良基地の各施設に電気を供給していたと考えられており、爆撃による被害を抑えるためコンクリートで頑丈に作られています。

市内には知られざる戦跡がまだまだ残っています。

※発電所跡は私有地のため、見学等はできません。



説明が無いと価値が分からず、来訪者にとって十分な環境とは言えませんでした。

そこで、鹿屋で実際に起こった史実から戦争の悲惨さや平和の尊さを様々な人に伝えることを目的に、昨年4月「鹿屋平和学習ガイド」と「戦争遺跡調査員」を初めて認定しました。

「平和学習ガイド」は旅行者や学校、市内の団体などに戦跡を案内し平和学習の機会を提供する役割を担い、「戦争遺跡調査員」は戦争体験者の証言の記録や戦跡、戦史の調査などを行います。

昨年度は4,000人以上にガイド案内を行ったほか、戦争体験者約80人の聞き取りを実施しました。これからもその活動を広げ続けていきます。

戦時中市内には、3つの海軍の基地があり、今でも多くの戦争遺跡(戦跡)が残されています。

また鹿屋は日本で最も多くの特攻隊員が出撃した地であるほか、真珠湾攻撃の作戦が練られた「鹿屋会談」が行われ、戦後に進駐軍の本土初上陸があったことから「太平洋戦争は、鹿屋で始まり、鹿屋で終わった」とも言われるほど、戦争に深く関わったまちと言えます。

戦跡の整備

市内の戦跡が抱える問題として、作られてから長年が経過したことによる風化や、樹木が生い茂り見学しにくいということが挙げられます。

残された戦跡を来訪者が分かりやすく安全に見学できるようにするため、昨年度「川東掩体壕(川東町)」と「地下壕第一電信室(串良町有里)」の駐車場の整備や案内板の設置を行い、多くの市民の皆さんが戦争の歴史や悲惨さについて学びきっかけとなっています。

今後も市ではツアー等で多くの人が訪れる戦跡について順次整備を行う予定です。

戦後70年以上が経過した現在、当時を知る戦争体験者が高齢化し、その経験を後世に伝えていくことが急務となっています。

また市内に今もなお多く残る戦跡について、そのほとんどは

「平和学習ガイド」と「戦争遺跡調査員」が活動を開始

毎年夏休み期間中には、戦跡を巡り戦争体験者の話を聞く「親子戦跡めぐりバスツアー」を開催しています。またその他の戦跡を巡る催しとして、昨年11月に「戦跡ウォーキング大会」を開催したほか、今年8月には自転車で戦跡を巡るサイクリング大会も初めて企画しました。

このように今まで戦跡や戦争の歴史について学ぶ機会が無かった人たちが参加しやすいような催しを行うことで、多くの人に鹿屋の戦争の歴史について考えてもらおうきっかけとなっています。

戦跡と戦争の歴史を活用した取り組み

市では、数年前から、戦跡や戦争の歴史について学ぶための様々な取り組みを行っています。

毎年夏休み期間中には、戦跡を巡り戦争体験者の話を聞く「親子戦跡めぐりバスツアー」を開催しています。またその他の戦跡を巡る催しとして、昨年11月に「戦跡ウォーキング大会」を開催したほか、今年8月には自転車で戦跡を巡るサイクリング大会も初めて企画しました。